

「次世代の九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	眞島 喜幸
-----------	-------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	A
テーマ1：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成	A
テーマ2：がん予防の推進を行う人材養成	B
テーマ3：新たな治療法を開発できる人材の養成	B

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
がんプロ2年目としては、各大学は、それぞれの地域性や強みを活かし、がん医療人材の育成に貢献しています。特に、オンライン教育、がんゲノム医療、離島医療、就労支援、多職種連携など、特色のある活動が高く評価できます。 教育コースの新設と充実 昨年度は、九州・沖縄の11大学が地域の医療ニーズや大学の特徴を考慮し、大学院博士課程コースやインテンシブコースなど、多様なプログラムを設置しています。特に、がん治療と就労の両立支援医師養成コースや、がんゲノム医療重点コースなどが新たに開設され、がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材育成が推進されています。 アウトプット 各教育プログラムは全36コース（うちインテンシブ11コース）を実施し、履修者・修了者、900名を予定。大学では、シンポジウム、セミナーなど、合計55回のイベントが開催され、約2600人が参加したと報告されました。また、九州がんプロ公式ホームページの記事掲載やリニューアル（93回）やSNSでの情報発信など、広報活動も積極的に行われています。 アウトカム

36 コース（大学院 24 コース、インテンシブコース 12 コース）を設置し、379 名の新規受け入れがありました。さらに、がんプロコース修了者が合計 37 名となりました。各大学で合計 15 名が専門医や各種がん医療専門資格を取得し、専門人材の育成が着実に進んでいる印象を受けます。

これらの取り組みにより、がん医療の均てん化や地域定着が期待され、今後も各大学の連携による教育プログラムのさらなる充実と発展が望まれます。

テーマ 1：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成 → **A:優れている**

現場の課題（病理診断医や放射線治療医の都市圏偏在と離島の医療問題）に即した人材育成が進んでいるものの、今年度は、がん薬物療法専門医の資格取得に向けた受験者が少ない印象を受けた。医療の進化に対応するための継続的な教育や制度の強化が求められている。

テーマ 2：がん予防の推進を行う人材養成 → **B:やや優れている**

がん予防の重要性は広く認識されているものの、遺伝性主要、二次がんを含むがん予防のサーベイランス、遺伝カウンセリングを担う専門的な人材が十分に確保されているとは言い難い状況。今後、4 期のがん対策を支援するためにもこの分野の教育機会のさらなる拡充が必要。特にこのテーマに関しては、参加校間の連携体制を利用した教育や啓発活動の強化が期待される。

テーマ 3：新たな治療法を開発できる人材の養成 → **B:やや優れている**

近年、がんゲノム遺伝子パネル検査が普及し、個別化医療や免疫療法などが標準治療に組み込まれてきている。放射線治療も進んできており、核医薬品を使う PRRT 療法や高齢患者も注目する粒子線治療も対象となる癌種が広がりを見せている。研究機関や大学での取り組みは進んでおり、新たな治療法の開発に貢献する人材が育成されている。ただし、臨床応用への橋渡しを強化する取り組みが今後求められている。

・がんプロ養成講座の国民的な理解を進めるための取組み（PPI）については、がんプロ養成講座を周知するためのホームページ、SNSを含めたチャンネルを複数使い、積極的に発信している点、また市民公開講座も積極的に開催している点は評価できます。

今後に向けて改善すべき点：

・自己評価で、「a.十分に目標を達成できている、b.目標を達成できている」とした大学は 5 校と昨年よりは 2 校増えたことは喜ばしい。「c.あと少しで目標を達成できる」と自己評価した残りの 6 校について、今後、準備段階から実施段階へのスムーズな段階的な改善と目標人数の登録に期待したい。

・代表校である九州大学では、複数の正規課程コースを立ち上げているが、他の連携大学は比較的少ない。グループとして協働することで教育体制の強化し成果をあげていくことに期待したい。

・全国の離島、僻地の半数を占める九州地域において、第4期がん対策推進基本計画に盛り込まれた「誰ひとり取り残さないがん対策」を進める教育プログラムを新設した点は評価できます。がんプロ教育事業の成果として、九州地域内のがん医療が改善されたかを図ること（高齢がん患者医療の実態把握）も PDCA の観点からはとても重要。

・複雑化する個別化医療に直面する医療関係者は、HTA（Health Technology Assessment：医療技術評価）についても学び、新しい医療技術（医薬品、医療機器、診断技術、治療法など）の有効性、安全性、費用対効果、倫理的・社会的影響を総合的に評価するプロセスの理解を深めていただきたい。

・高額療養費問題が健在化してきており、日本では縁が無いと考えられてきた経済毒性（Financial Toxicity）が現実味をおびてきたことから、高額療養費で苦しむがん患者が多い米国で生まれた「賢い医療選択（Choosing Wisely）」を本がんプロ事業でも取り上げていただきたい。（※**Choosing Wisely（チューズン・ワイズリー）は、「賢い医療選択」**を促す国際的な運動で、不要な医療の削減と医療の質の向上を目的としています。2012年にアメリカのABIM財団（American Board of Internal Medicine Foundation）が開始し、現在では世界各国で展開されています）

- ・病院の働き方改革が進む中、事業運営の効率化、予算管理などもがんプロ事業継続に関する課題との意見もあります。費用対効果の高いAIツール、Digital Technologyを利用して効率化を図り、教育プログラムやインテンシブコースの開発施設間の連携強化を進めていただきたい。
- ・各大学でさまざまな目標値を設定しているが、年度ごと達成数、達成率が可視化できる表を作成していただきたい。九州がんプロに参加する11大学の活動内容について、PDCAサイクルを回して改善していくためにもアウトプット、アウトカムが可視化できる図、表を作成していただきたい。

2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	評価できる点： ・九州大学は、履修生の受け入れ目標を上回る実績を達成し、合同研修やカンファレンスの開催、がんゲノム医療や小児緩和ケアなど幅広い領域での活動を展開しました。特に、全国オンライン教育プラットフォームの活用や、海外機関との連携を強化した点が優れています。 ・全国規模のオンライン教育プラットフォームを活用し、履修生だけでなく広く医療者に向けた教育を実施している点が優れています。地理的な制約を超えて多くの医療者に学習機会を提供し、がん医療人材の裾野を広げることに貢献しています。 改善すべき点： ・放射線治療学コースや小児腫瘍学コースの志願者が少なかった点は今後の課題です。放射線治療や小児腫瘍の専門医の魅力を伝えるため、若手医師・学生向けの啓発活動をより強化し、履修生の増加を目指すとういでしょう。また、社会への情報発信の強化を継続し、がん医療の普及啓発にさらに貢献できると期待します。
福岡大学	評価できる点： ・インテンシブコースの動画配信や、Lymphoma Web Meetingの開催を通じ、がん医療の知識向上に努めた点は評価できます。また、AYA世代患者支援のための研修会を予定している点も、社会的な意義が大きい活動です。 ・リンパ腫に特化したオンライン会議Lymphoma Web Meetingを定期的に開催し、専門的な知識を広める取り組みは評価できます。特定の疾患にフォーカスした学びの場を提供することで、専門医の育成や知識のアップデートに貢献しています。 改善すべき点： ・大学院コースの入学者や専門資格取得者がいなかった点が課題です。院内勉強会やインテンシブコースを活用し、がん医療に関心のある医療者の育成に力を入れるとういでしょう。また、ホームページの更新頻度を増やし、情報発信を積極的に行うことで、社会への認知度向上が期待されます。
久留米大学	評価できる点： ・放射線治療専門医養成コース、がん看護CNS養成コースの参加者の充実など、がん医療人材育成に向けた取り組みが進んでいます。学生の国内外の学会発表や研究活動も活発であり、特にがん看護専門看護師の育成に成功しています。 ・がん看護専門看護師（CNS）の養成に特化し、臨床現場で即戦力となる高度な看護人材を輩出している点が優れています。多職種連携における看護の重要性を強化し、がん患者のケアの質向上に寄与しています。 改善すべき点： ・大学院進学者の確保が課題であり、がん診療に関わる若手医師・学生への周知を強化することが求められます。また、研究成果の論文文化を促進し、学会発表だけでなく論文投稿を増やすことで、プログラムの実績をさらに高めることが期待されます。

産業医科大学	評価できる点： ・今年度から正式に九州がんプロに参加し、がん治療と就労の両立支援に特化したカリキュラムを設置した点が特徴的です。両立支援カンファレンスや合同がんサボードの開催、市民公開講座の実施など、多職種連携と社会啓発にも注力しました。 ・がんと就労の両立支援カリキュラムの導入では、がん患者が就労を継続できるように支援する教育プログラムを整備し、産業医の視点を活かした独自性のある活動を展開しています。働く世代のがん患者を支える体制を整える点で、社会的意義が大きい取り組みです。 改善すべき点： ・今年度は履修生の研究実績が少ないため、今後の研究支援を強化し、学会発表・論文投稿の機会を増やすとよいでしょう。また、産業医大の特色を活かしたがん就労支援プログラムをさらに発展させ、全国的なモデルケースとなることを目指すと、より高い評価が得られる可能性があります。
佐賀大学	評価できる点： ・がん専門医療人の養成に向けた教育活動を継続し、履修生の知識向上に努めました。特に、地域医療との連携を重視し、がん診療の均てん化に貢献している点は評価できます。 ・地方におけるがん診療の均てん化を目指し、地域の医療者向けの研修や情報共有を積極的に行い、都市部との医療格差を縮小する取り組みはとても重要です。 改善すべき点： ・履修生の確保が課題であり、がん医療の魅力を伝えるための広報活動を強化することが重要です。また、シンポジウムや公開講座の開催回数を増やすようにして、より多くの医療従事者や市民にがんプロの意義を伝える取り組みを推進するとよいでしょう。
長崎大学	評価できる点： ・離島医療との連携を活かし、がん医療の地域格差を解消する取り組みを進めた点が特徴的です。また、多職種連携教育の推進や、九州がんプロ全体研修会の開催を通じて、学術的な成果も積極的に発表している点は評価できます。 ・離島・へき地におけるがん診療の課題を解決するための研修や教育活動を展開しており、医療資源が限られた地域でも高水準のがん診療を提供できるよう支援し、地域医療の発展に寄与しています。 改善すべき点： ・履修生のキャリア支援をさらに強化し、専門医資格取得のサポートを充実させると、プログラムの効果がより高まるでしょう。また、がん医療に興味を持つ若手医師の育成に向けた取り組みを強化し、履修生の増加を目指すことが求められます。
熊本大学	評価できる点： ・がん医療の最前線で活躍できる専門人材の育成を進め、履修生の学会発表や研究活動も積極的に行われています。放射線治療やがんゲノム医療の分野での実績が高く評価できます。 ・がんゲノム医療に関する教育・研究活動を強化し、次世代の個別化医療の発展に貢献している点が評価できます。専門性の高い分野での知識を普及させ、最新の医療技術の実践に貢献しています。 改善すべき点： ・履修生のキャリアパスをより明確に示し、専門医資格取得への支援を強化することが求められます。また、地域医療機関との連携を深め、より実践的な研修の機会を増やすと、がんプロの魅力が高まり、履修生の増加につながるでしょう。
大分大学	評価できる点： ・九州大学との合同カンファレンスの開催や、がん医療に関するセミナーの実施など、実践的な教育活動を展開しています。特に、多職種連携教育の推進が評価できます。 ・多職種連携の推進については、九州大学と連携し、合同カンファレンスを開催することで、医師・看護師・薬剤師など多職種の連携を強化しています。多様な専門職が協力しながら最適ながん治療を提供するための教育を実施している点が優れています。 改善すべき点： ・履修生の確保が課題であり、地域の医療機関との連携を強化し、がん医療に関心を持つ学生を増やす工夫が必要です。また、研究活動の成果を学術誌に投稿する機会を増や

	し、プログラムの実績をさらに充実させると良いでしょう。
宮崎大学	評価できる点： ・地域特有のがん医療課題への対応として、宮崎県の地域性に応じたがん医療課題（例えば、農薬暴露による発がんリスク）に対応する研究・教育活動を展開している点、さらに地域医療に根ざしたがん診療の実践に貢献している点は評価できます。 改善すべき点： ・履修生の確保が課題であり、がん医療に関心を持つ学生を増やすための取り組みを強化することが重要です。また、学会発表や論文投稿を促進し、研究活動の充実を図ることで、プログラムの実績を高めることができます。
鹿児島大学	評価できる点： ・地域医療との連携を活かし、がん医療の普及を進めています。特に、地域の医療従事者との協力体制を築き、教育活動を展開している点は評価できます。 ・地域の医療従事者と密接に連携し、地域全体でがん医療の質を向上させる取り組みを推進しています。また、地域に根ざした実践的な教育活動を展開している点は評価できます。 改善すべき点： ・履修生の確保と研究活動の強化が課題です。がん医療に関する研修会や公開講座を増やし、興味を持つ学生や医療者を増やすことが求められます。また、専門資格取得の支援体制を整えることで、履修生のキャリア支援を強化するとよいでしょう。
琉球大学	評価できる点： ・離島医療との連携を活かし、がん専門医療人の育成に取り組んでいる点が評価できます。また、地域特有のがん医療課題に対応するための教育活動を展開しています。 ・離島医療とがん診療の統合的アプローチとして、沖縄県の地理的特性を活かし、離島医療とがん診療を統合した教育プログラムを実施している点が評価できます。医療資源の乏しい地域におけるがん診療の発展に大きく貢献しています。 改善すべき点： ・履修生の確保が課題であり、がん医療に関する広報活動を強化することが求められます。また、研究活動をさらに充実させ、学会発表や論文投稿の機会を増やすことで、プログラムの成果を高めることができます。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	眞嶋朋子
-----------	------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
テーマ1：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成	b
テーマ2：がん予防の推進を行う人材養成	b
テーマ3：新たな治療法を開発できる人材の養成	a

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
初年度より、新しいがんプロ目標をもとにがんプロ正規生を受け入れるための準備およびインテンシブコースを開設して積極的にがんプロを推進している。これまでの実績から継続してその成果が表れている。 テーマ1については 最も多くの大学で実施するテーマであり、順調に進められている。九州大学を中心に医学系大学院生の登録が行われており、九州大学のリーダーシップが示されている。 テーマ2については、遺伝カウンセリングなど、専門性の高いものであり、2名の実績と少ないが、引き続き登録者のリクルートおよび教育内容の充実及び公開を期待する。 テーマ3については、実績として他のテーマよりも実績数が45名と多い。各大学に養成コースや、インテンシブコースを設置するなど、今後のがんプロの目標に向けて順調に土台が作られている。医用量子線データサイエンティストコースには目標よりも多くの登録者があり、ニーズがあることが分かる。引き続きプログラムの提供の推進を期待する。 特に評価できる内容は、 履修生による教育研究成果発表会や ガンプロ全体研修会、他の拠点である北海道、東北とのシンポジウムがあり、新たなチャレンジが示されている。 今後取り組んでいただきたい点としては、（九州全体としては多様な職種を取り組んでおられるが）、個々の大学の専門職連携 例えば、看護部、薬剤部、栄養科、リハビリテーション科との連携や診療科間の連携の実装がさらに可視化されることを期待する。

2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	全体として養成人数が多く、他の大学をリードしている。専門家の少ない、小児腫瘍学コース、緩和ケアチーム勉強会を開催されており、参加人数も多く大変良い取り組みである評価できる。がんセミナーについても多職種の参加が多く良い取り組みであると思うが、知識の共有段階を超えてどのように実装するのか、現場にどのような効果が表れているのかについての紹介などがあるとより興味を持って参加できるのではないかと考える。
福岡大学	正規課程の入学者が獲得できなかったことについては、継続課題であるが、インテンシブコースについては参加者が多く、成果が表れている。腎臓内科医を迎えた多領域の勉強会を開催されており、今期のがんプロの特徴を踏まえた企画をされている。今後は診療科の協力をえて、大学院生に関心を持ってもらう取り組みが期待される。
久留米大学	九州がんプロの中で、がん看護専門看護師の教育については先駆的に取り組まれている。養成者数獲得に尽力されている。専門看護師の研究発表による、公表も力を入れておられ、教育の質の向上が図られている。研究内容については、高度実践看護の実装をあらゆるケーススタディなどが専門看護師の研究としても妥当なものであると考える。複数ケーススタディなど研究デザインについても専門看護師教育の中で深めていただけたらと思う。
産業医科大学	がん治療と就労の両立支援医師コースは非常に特徴的なコースであり、九州がんプロのコースの中でも今回注目されるコースで。まだ立ち上げられたばかりなので、学生さんの履修に尽力されていることかと思うが、教育内容や履修者の学習結果も教示していただくことを期待する。
佐賀大学	テーマ①がん診療セミナーで多職種の参加を踏まえた対面での研修が行われており、がんプロの教育の広がりがあると評価できる。また、化学療法プロトコルの事前予備審査は、がん薬物療法知識をアップデートし、多職種で安全管理を目指す上でも必須の内容となっている。診療科をリーダとして定期的に進めていることが分かった。診療を行う上で、必須のことではあると思うがさらに、また他の職種の知識のアップデートを確認する仕組みもあるとよいのではないかと考える。新たな治療法を開発できる人材養成についても、研究発表会の中で受賞者を出され、成果が見える形で示されている。
長崎大学	ゲノム医療や、へき地医療実習など特徴的な教育プログラムが継続的に行われており、成果が蓄積されていることがうかがえました。 在宅・地域医療実習を進めており、琉球大学がんプロ学生も受け入れておられ、大学の共同的取り組みとして評価できる。歯科医師養成コースは特徴的な取り組みとして、成果が期待される。 そのほか、特徴的な取り組みが記載されているが、参加者数などが記載されているとより具体的な成果が見えやすいのではないかと考える。
熊本大学	「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、およびインテンシブコースで、多くのコース生や参加者がおり、最先端のがん研究について学ぶ機会が創出されたことについて評価できる。また、養成数や参加者数を明示しておられ、九州がんプロの中でも数値的な評価が示されている。広報についての今後の展開を期待する。
大分大学	テーマ1、2の目標について具体的に取り組まれていることが分かる。特にテーマ2の予防推進を行う人材育成について、がんゲノム医療と遺伝カウンセリングなど具体的な公開講座を行っておられることが示されている。また、他県からがん看護専門看護師を招聘し、がん看護の知識普及に取り組んでおり、医学のみならず、看護領域の発展にも良い取り組みが行われている。原著論文の発表にも取り組まれ、幅広い成果発表が行われている。
宮崎大学	テーマ1に対して幅広い取り組みが行われている。インテンシブコースにおける多職種連携教育や、放射線治療コース、がん看護専門看護師コースが設定されている。また、がん看護専門看護師の養成課程では、がんゲノム、希少がん、小児がんといったテーマも包括的に取り扱っており、定期的な講演会を通じて学生のリクルートを行っている。小児がん医療については拠点テレビ会議で行うなど、拠点内での協力が見られる。講演会を通じて、専門的な知識の幅広い普及に尽力されていることについて評価できる。
鹿児島大学	大学院コースのカリキュラムにおいて、具体的な内容が提示されており、第4期のがんプロの目標に沿ったテーマを設定され、今後の計画のための土台が丁寧に作られていると思う。 鹿児島大学の今年度の活動として 特に遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コースが特徴的で、実績も数値として出されており、今後の成果が期待で

	きる。またがん診療、緩和ケア、相談支援、がん登録の4つの部門を統合した研修会も行われ、120-160名の参加があり、また市民講座の参加者も多く、需要の高い講座を提供され、がんプロの意義の普及活動に尽力されていることがわかる。
琉球大学	第3期のがんプロの目標を引き続き発展させ、がん看護専門看護師コース、がん薬物療法専門医コースの構築に努力されている。インテンシブコースも参加者がおられ、複数の医療機関からの参加があることが分かった。沖縄県内の離島での包括的ながん医療を勧める取り組みをしており、特に看護系の養成においてもリクルートに力を入れていることが示されている。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	田村 研治
-----------	-------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	a
テーマ1：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成	a
テーマ2：がん予防の推進を行う人材養成	b
テーマ3：新たな治療法を開発できる人材の養成	a

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
九州大学を中心にグループとして非常によく統括されている。各大学の特性を生かして、全体として、テーマ1、2、3を十分に意識して取り組んでいる。第4期がんプロの課題である、地域における緩和ケア、放射線治療、病理に関する人材育成にも力をいれている。又、第4期がんプロ課題に取り入れられた、学際的領域に関しても、積極的にプログラムを改訂し取り組む姿勢がみられる。 テーマ①のコース数は27コース、テーマ②のコース数は3コース、テーマ③のコース数は5コース、全テーマについては1コース組まれている。 令和6年度の大学院正規課程入学者数は、九州大学が37名で最も多く、内訳でも、「個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース」及び、「医用量子線データサイエンスコース」が多く、評価できる。一部の大学において、令和6年度の大学院正規課程入学者数が0の施設があるのは今後の課題である。 グループ全体として、シンポジウム、セミナーなど充実している。 グループ全体として、九州大学とそれ以外の大学間連携を強めていくことは重要である。 九州地区全体としては、離島や僻地のがん医療の問題をとらえていることは評価できる。

2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	大学院正規コースを中心に、多くのコースを運用している。九州がんプロ全体を主幹して統括している。大学院正規コースの、放射線治療学コースや、次世代病理学コースなどがあり、「地域に定着する放射線治療医・病理診断医の育成」に対応している。放射線治療学コース、がん予防とプレシジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コースについて新たな履修生があることを期待する。
福岡大学	大学内でのがん教育に関して取り組みは評価できる。令和6年度の大学院正規課程入学者が0であるので、がんプロの大学での推進、周知、取り組みに期待する。
久留米大学	放射線治療専門医養成コース1名について、履修が順調に進み、国内外の学会でも発表されており評価できる。がん看護分野CNSコースの3名の在籍者についても順調に修士課程修了予定である。九州がんプロにおける、看護師の専門家育成において役割を果たしている。
産業医科大学	R6年度、ガンプロ履修生が5名であり、大変評価できる。がん治療と就労の養成コースに力をいれている。今後、がんゲノム医療コースは、臨床遺伝専門医や、遺伝性腫瘍専門医の育成に期待する。
佐賀大学	テーマ①、②、③別に課題をしっかりととらえ、取り組んでいる姿勢が評価できる。テーマ③の新たな治療を開発できる人材の育成では、創薬科学実習を取り入れ、論文発表も行っている。グループの中では、創薬に関して、基礎～橋渡し研究について取り組んでおり、九州がんプロにおける、テーマ③についての成果が期待できる。
長崎大学	R6年度、ガンプロ履修生が6名であり、大変評価できる。遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程）は特徴的でありテーマ②に合致する。離島や僻地のがん医療に対する課題・教育にも取り組んでいる。核医学や腫瘍循環器学など新しい治療法、学際的分野についても、積極的に取り入れていることも評価できる。
熊本大学	令和6年度、ガンプロ履修生が4名であり評価できる。薬剤師を対象としたインテンシブコース「がん患者個別のライフステージ、QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」が充実している。
大分大学	令和6年度、ガンプロ履修生が7名であり、大変評価できる。事例検討会、公開講座、特別講演、市民公開講座などの実績について評価できる。
宮崎大学	包括的がん治療医療人養成コースに、R6年度は1名の履修者があり期待する。看護師を対象とする、「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」についても高く評価する。
鹿児島大学	令和6年度の大学院正規課程入学者が0であるので、次年度に期待する。インテンシブコースについては、遺伝子カウンセラー、専門薬剤師の育成にも期待する。
琉球大学	がん薬物療法専門医コースに1名の入学があり、大変期待する。がん領域における、都心と地域の格差の問題に早くから取り組んでおり、地方、地域に根差した専門家の育成と、配置について成果を出す可能性がある。痛みの治療・ケア・エキスパートナースに焦点をおいたコース作成、人材育成は評価できる。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	石澤 啓介
-----------	-------

1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
テーマ1：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成	b
テーマ2：がん予防の推進を行う人材養成	b
テーマ3：新たな治療法を開発できる人材の養成	c

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
九州は全国の離島・僻地の約半数を有し、がん医療に必要な人材が不足している課題を抱えている。「次世代の九州がんプロ養成プラン」は、九州・沖縄の11大学が参画する事業であり、がん対策推進基本計画で求められる人材育成に取り組んでいる。本事業では、がん医療の現場で顕在化する課題解決、がん予防の推進、新たな治療法の開発を目的とする3つのテーマが掲げられており、九州・沖縄全域のがん医療における課題解決に向けたプログラムが設置されている。また、本事業計画を共有するため、事業運営推進協議会を組織し、ハイブリッド形式で協議会を2回開催されていることは、九州・沖縄という広範なエリアにおけるがん専門医療人材養成プログラムの均てん化に役立つことが期待できる。 本年度は、11大学において、計36コース（大学院24コース、インテンシブ12コース）が設置され、大学院コース68名、インテンシブコース311名、計379名の新規受入があったことは評価できる。また、本プログラムにおいて、がん医療に関連する認定医・専門医資格（がん治療認定医、婦人科腫瘍専門医、放射線科専門医など）を10名が取得しており、九州・沖縄でがん専門医療人として活動することが望まれる。また、九州がんプロ全体研修会や教育研究成果発表会が継続的に実施されていることは、各大学における九州がんプロ履修生や教員の研究成果の発信や情報交換・共有にも繋がり、今後の研究ネットワークの構築にも役立つと考えられる。さらに、北海道拠点、東北拠点、九州拠点の三拠点連携シンポジウムが開催され、拠点間の連携構築を推進したことは評価できる。 今後、本事業により九州・沖縄全域でがん医療に関わる専門性の高い医療人を養成することにより、将来、離島・僻地も含めたエリア全域に適切に配置されるように努めていただきたい。今後も九州各地で一般市民を対象としたセミナーや市民公開講座などを継続的に開催することで、最新のがん治療を広く情報発信する役割を担うことも大いに期待される。

2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	エリア拠点として九州がんプロの活動の取り纏め役を担当されている。大学院7コースを開設し、計37名を新規で受入れている。各種セミナーや市民公開講座、海外訪問研修も計画通り実施されている。今後も本事業の目的や取り組みについて、地域や社会に対して情報発信を継続されることを期待する。
福岡大学	がん医療における課題に対応できる人材養成に取り組んでいるが、今年度は大学院コースへの入学者および専門医資格取得者の実績がなかった。ホームページの更新等を活発に行うことで本事業の目的を積極的に情報発信し、がんプロの大学院生獲得に努めていただきたい。
久留米大学	今年度は「放射線療法専門医養成コース」に1名が入学し、「がん看護CNS養成コース」には3名在籍の実績があった。今後は、がん診療に携わる若手医師や指導教員に当教育プログラムの意義を周知し、理解を促す方策を検討していただきたい。また、地域や社会に対して情報発信を行い、がん教育及び啓発活動の推進が望まれる。
産業医科大学	今年度から九州がんプロに正式参加され、「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」に2名、「がんゲノム医療重点コース」3名がすでに入学し、履修を開始している。本プログラムの取り組みについて学内、地域・社会に情報発信するとともに、今後の履修者のさらなる獲得に期待したい。
佐賀大学	「がん治療専門医育成コース」には2名が在籍している。定期的ながん診療セミナーを実施し、がん診療に携わる人材育成に取り組んでいる。本事業の目的を広く周知して、さらなる履修者の獲得に努めて頂きたい。また今後、新規薬剤開発に関わる成果発表や専門医の育成が期待される。
長崎大学	「多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース」に1名、「がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース」に3名、「遺伝看護・遺伝カウンセリングコース」に2名を受け入れている。在宅医療実習または離島・僻地実習も継続して行われている。引き続き、次世代のがん専門医療人育成に努めていただきたい。
熊本大学	「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」に4名、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」に1名を受け入れている。また、本プログラム履修生が、がん治療認定医、消化器外科専門医等の資格を取得された。今後、がん専門薬剤師の養成を含む多職種の医療人材養成にも努めていただきたい。
大分大学	包括的がん治療専門医療人養成コースに7名、インテンシブコースに9名が入学している。履修生が各種専門医も取得しており、各種セミナーや講習会も実施されている。本事業の目的を広く周知して、次世代のがん看護を実践する看護職者の育成にも努めていただきたい。
宮崎大学	「包括的がん専門医療人養成コース」に1名、「がん看護専門看護師養成コース」に2名受け入れている。また、放射線治療専門医養成コース（インテンシブコース）で1名が放射線治療専門医を取得している。本事業の目的や取り組みを地域や社会に情報発信し、市民公開講座の開催などにも努めていただきたい。
鹿児島大学	遺伝性腫瘍のカounselingとサーベイランス技術者養成コースに5名が参加している。がん薬物療法専門および臨床遺伝専門医の資格をそれぞれ1名ずつ取得された。今後、Cancer Boardやエキスパートパネルを活用した教育プログラムの実践が望まれる。また、がん専門薬剤師養成コースの履修生の獲得にも努めていただきたい。
琉球大学	がん薬物療法専門医コースに1名入学し、インテンシブコースを看護師7名が受講した。来年度は、がん看護専門看護師コースへの大学院生の入学が期待される。本事業の目的や取り組みを地域や社会に情報発信し、市民公開講座の開催などにも努めていただきたい。